

JIS Z 2305:2013 による 新規試験用訓練についての案内 (TT/LT)



一般社団法人 日本非破壊検査協会 認証事業本部

- * 本書は、一般社団法人 日本非破壊検査協会 認証事業本部が実施する JIS Z 2305:2013 に基づく資格制度における新規試験を受験するに当たり要求される訓練について書かれたものです。
- * 規格の改正等により資格及び認証制度が改正された場合、変更される場合があります。

《NDIS の JIS 移行に伴う「訓練」の変更による経過措置について》

2019 年春期より、JIS Z 2305:2013 に基づく赤外線サーモグラフィ試験 (TT) 及び漏れ試験 (LT) の新規試験を実施いたします。

これに伴い、訓練実施記録の様式変更、新たな訓練実施記録集計表の提出等の変更があります。これらの変更に伴う経過措置は下記となりますのでご注意ください。

なお、TT レベル 3 は 2025 年秋期試験より実施します。

《経過措置についての目次》

- ・ A. 最小限の訓練時間の適用時期…………… 1
- ・ B. JIS「訓練用シラバス」の適用時期…………… 2
- ・ C. 訓練実施記録の様式変更時期…………… 2
- ・ D. NDIS 様式で作成された訓練実施記録と訓練用シラバスの適用…………… 2
- ・ E. レベル 1 資格非保持者のレベル 2 訓練…………… 2
- ・ F. LT3/TT3 の「訓練証明者」の資格…………… 3

＜A. 最小限の訓練時間の適用時期＞

JIS Z 2305:2013 による資格試験を新規に受験する場合、受験資格として「最小限の訓練時間」（「1. 受験申請資格と最小限の訓練時間」参照）を満足する必要があります。

「最小限の訓練時間」が適用されるのは、[2019 年春期試験受付から](#)となります。

訓練時間が変更となったもの、新たに訓練時間が設定されたものは特にご注意ください。

LT1	・ 40 時間から 48 時間に変更 ・ 技法により訓練時間を設定 (B: 圧力法) 24 時間 + (C: トレーサガス法) 24 時間 計 48 時間
LT2	・ 83 時間から 72 時間に変更 ・ 技法により訓練時間を設定 (B: 圧力法) 32 時間 + (C: トレーサガス法) 40 時間 計 72 時間
TT3	訓練時間 40 時間を設定 (2025 年秋期試験より実施)
LT3	訓練時間 72 時間を設定

<B. JIS「訓練用シラバス」の適用時期>

訓練内容及び訓練内容ごとの最小限訓練時間は、JIS「訓練用シラバス」に規定しています。JIS「訓練用シラバス」に基づく訓練内容及び訓練内容ごとの最小限訓練時間が資格試験に適用されるのは、2020 年秋期試験受付からとなります。

JIS「訓練用シラバス」は、次の2つで構成されます。

講義	訓練内容ごとに必要な講義の訓練時間が規定されており、それを全て満足する必要があります。
実習	訓練内容ごとに必要な実習の訓練時間が規定されており、それを全て満足する必要があります。

<C. 訓練実施記録の様式変更時期>

2020 年 1 月までに受けた訓練は、NDIS 様式の訓練実施記録、又は、JIS 様式の訓練実施記録のどちらで作成しても構いません。

NDIS 様式で訓練実施記録を作成する場合、併せて<D. NDIS 様式で作成された訓練実施記録と訓練用シラバスの適用>もご覧ください。

2020 年 2 月以降に受けた訓練は、JIS 様式の訓練実施記録で作成してください。NDIS 様式で作成された訓練実施記録は受付できません。

<D. NDIS 様式で作成された訓練実施記録と訓練用シラバスの適用>

NDIS 様式で作成された訓練実施記録は、訓練を受けた日から 5 年間使用することが出来ます（例：2020 年 1 月に受けた訓練は、2024 年秋期試験受付まで使用可能）。

ただし、JIS「訓練用シラバス」の適用が 2020 年秋期試験からとなっておりますので、NDIS 様式の訓練実施記録を用いる場合、その訓練内容が JIS「訓練用シラバス」のどの項目に該当するか仕分ける必要があります。また、JIS「訓練用シラバス」に要求される訓練内容をすべて満足できない可能性もあります。そのため、JIS「訓練用シラバス」が適用される 2020 年秋期試験受付までに JIS「訓練用シラバス」に基づいた訓練を受けることをお勧めします。

<JSNDI 発行の NDIS 訓練実施記録で JIS の受験申請をする場合>

JSNDI で実施した NDIS の訓練と JIS Z 2305 : 2013 の訓練シラバスとの差異はありません。（LT1 除く） LT1 の差異に関する詳細は「(EA3-1) 訓練実施記録及び集計表 (LT1)」を参照してください。

◆JIS「訓練用シラバス」はホームページよりダウンロードください◆

<E. レベル 1 資格非保持者のレベル 2 訓練>

レベル 1 資格非保持者が直接レベル 2 を受験申請する場合、次の二つが必要となります。

- (a) レベル 1 用訓練実施記録集計表と訓練実施記録
- (b) レベル 2 用訓練実施記録集計表と訓練実施記録

NDIS 様式で作成された訓練実施記録で、レベル 1 とレベル 2 の訓練を 1 枚にまとめて記録している場合、その 1 枚の訓練実施記録の中でレベル 1 訓練とレベル 2 訓練が分かるように赤字等で指示を記入するようにしてください。

< F. LT3/TT3 の「訓練証明者」の資格 >

JSNDI では、レベル 3 の訓練証明者はその訓練の NDT 方法のレベル 3 を保持していることと規定しています。(レベル 3 基礎 (NDT 共通) 訓練は除く)

LT レベル 3 は 2019 年春期より新設された資格のため、移行措置として次の①又は②の資格保持者を LT3 の訓練証明者として認めます。

< 訓練証明者の資格条件 >

- ① LT レベル 2 資格保持者で、かつ LT 以外のレベル 3 資格保持者 1 名
- ② LT レベル 2 資格保持者と LT 以外のレベル 3 資格保持者の 2 名

TT レベル 3 は 2025 年秋期より新設された資格のため、移行措置として次の①又は②の資格保持者を TT3 の訓練証明者として認めます。

< 訓練証明者の資格条件 >

- ① TT レベル 2 資格保持者で、かつ TT 以外のレベル 3 資格保持者 1 名
- ② TT レベル 2 資格保持者と TT 以外のレベル 3 資格保持者の 2 名

~~上記①②の適用は 2020 年春期試験受付までとします。2020 年秋期試験受付から LT レベル 3 の訓練証明者は LT レベル 3 資格保持者とします。~~

~~上記①②の適用は、2020 年春期試験受付までの予定でしたが、2023 年秋期試験受付までとします。~~

上記①②の適用は、2023 年秋期試験受付までの予定でしたが、当面継続することとします。

《新規試験用訓練についての案内の目次》

1. 受験申請資格と最小限の訓練時間	4
2. 訓練用シラバスと NDT 技術者訓練機関	5
3. 訓練内容と必要な訓練時間	5
4. 訓練方法	7
5. 訓練者、訓練責任者、訓練証明者	8
6. 1 日の最大訓練時間	9
7. 訓練の有効期間	9
8. 訓練の証明書	9
9. 訓練の証明書を提出する受験申請	9
10. 訓練の証明書のまとめ方（概要）	10
11. 訓練の証明書の経過措置	12
12. よく寄せられる質問	13
見本 1：レベル 1 及びレベル 2 用訓練実施記録集計表（TT2）	14
見本 2：レベル 3 用訓練実施記録集計表（LT3）	15
見本 3：訓練実施記録（LT3）	16

上記 1～10 項の案内は、《JIS Z 2305 改正に伴う「訓練」の変更への経過措置について》（本紙 1 ページ）の経過措置後を基本として記載してあります

1. 受験申請資格と最小限の訓練時間

JIS Z 2305:2013 の資格試験を受験するためには、下表の最小限の訓練時間の訓練を修了する必要があります。

また、訓練内容及び訓練内容ごとに必要な訓練時間は、JIS「訓練用シラバス」をご覧ください。

◆JIS「訓練用シラバス」はホームページよりダウンロードください◆

表 1 各 NDT 方法における最小限の訓練時間

NDT 方法		レベル 1		レベル 2				レベル 3 ^{*2}	
				レベル 1 資格保持者 ^{*1}		レベル 1 資格非保持者			
RT (放射線透過試験) ^{*3}		40 時間		80 時間		120 時間		40 時間	
UT (超音波探傷試験)		40 時間		80 時間		120 時間		40 時間	
MT (磁気探傷試験)		16 時間		24 時間		40 時間		32 時間	
PT (浸透探傷試験)		16 時間		24 時間		40 時間		24 時間	
ET (渦電流探傷試験)		40 時間		48 時間		88 時間		48 時間	
ST (ひずみゲージ試験)		16 時間		24 時間		40 時間		20 時間	
TT (赤外線サーモグラフィ試験)		40 時間		80 時間		120 時間		40 時間 ^{*5}	
LT (漏れ試験) ^{*4}	B ^{*4}	24 時間 ^{*4}	48 時間	32 時間 ^{*4}	72 時間	56 時間 ^{*4}	120 時間	32 時間 ^{*4}	72 時間
	C ^{*4}	24 時間 ^{*4}		40 時間 ^{*4}		64 時間 ^{*4}		40 時間 ^{*4}	

^{*1} レベル 1 資格保持者に表 2 の限定レベル 1 資格保持者は該当しません。

^{*2} レベル 3 については最小限の訓練時間が規定されましたのでご注意ください。
レベル 3 の訓練時間は、レベル 3 に共通なレベル 3 基礎の訓練時間（8 時間）を含んだ訓練時間となっています。
また、レベル 3 の受験者は受験申請する NDT 方法のレベル 2 資格を保持していることが条件となります。

^{*3} RT の最小限の訓練時間には、「放射線安全」の訓練時間は含みません。

^{*4} LT の訓練時間が変更されました。また、技法（B：圧力法、C：トレーサガス法）ごとに最小限の訓練時間が設定され、それぞれ満足する必要がありますのでご注意ください。

^{*5} TT レベル 3 は 2025 年秋期試験より実施しています。

表 2 各限定 NDT 方法における最小限の訓練時間

限定 NDT 方法	限定 レベル 1	限定レベル 2	
		限定レベル 1 資格保持者 ^{*1}	限定レベル 1 資格非所持者
UM (超音波厚さ測定)	20 時間 ^{*2}	—	—
MY (極間法磁気探傷検査)	8 時間	16 時間	24 時間
ME (通電法磁気探傷検査)	8 時間	—	—
PD (溶剤除去性浸透探傷検査)	8 時間	16 時間	24 時間

^{*1} 限定レベル 1 資格保持者に表 1 のレベル 1 資格保持者は該当しません。

^{*2} UM レベル 1 の訓練時間が変更されましたのでご注意ください。

2. 訓練用シラバスと NDT 技術者訓練機関

JIS「訓練用シラバス」は、JIS Z 2305:2013 の「3.20」及び「5.2.2(b)」に基づき、認証機関（日本非破壊検査協会認証事業本部）が定めた訓練コースのためのシラバスです。

NDT 技術者訓練機関（以下、「訓練機関」という）は、JIS「訓練用シラバス」を基に訓練コースを設定してください。

訓練機関は、「NDT 技術者訓練組織に関するガイドライン ISO/TR 25108」の要件を満足することを推奨します。

◆JIS「訓練用シラバス」はホームページよりダウンロードください◆

3. 訓練内容と必要な訓練時間

受験資格として認められる訓練内容及び訓練内容ごとの必要な訓練時間は、JIS「訓練用シラバス」をご覧ください。

JIS「訓練用シラバス」では、「①訓練内容」ごとに「③講義」と「④実習」の必要最低限の訓練時間（「②訓練内容別必要訓練時間」）を規定しています。

「②訓練内容別必要訓練時間」を規定していない「①訓練内容」については、時間を規定していませんが「⑦最小限の訓練時間」に含めることができます。ただし、RT の「放射線安全管理」については「⑦最小限の訓練時間」に含めることはできません。

「①訓練内容」には、「⑤訓練内容題目」の内容を含んでいる必要があります。

「⑤訓練内容題目」の詳細については、「⑥訓練内容詳細」をご覧ください。

* 「⑤訓練内容題目」及び「⑥訓練内容詳細」に記載のないものは、上位レベルの JIS「訓練用シラバス」をご覧ください。

＜例：RT1 訓練用シラバス＞

①訓練内容	②訓練内容別必要訓練時間 (h)		⑤訓練内容題目	⑥訓練内容詳細
	③講義	④実習		
NDT の用語と歴史の紹介	1.0		歴史（目的） 用語（電磁放射線、放射線のエネルギー、線量、線量率）	
：	：	：	：	：
製品知識と試験方法と適用技術	1.5	0.5	溶接部の不連続 鑄造品のきず 検出性能に及ぼす影響（きずの種類、寸法、位置）	きずの種類 検出可能な透過厚さ範囲
：	：	：	：	：
品質アспект	0.50		技術者の資格（ISO 9712 及び JIS Z 2305 による）	
開発				
放射線安全管理				
計	12.0	12.0		

必要な講義時間	12～28	—
必要な実習時間	—	12～28
⑦最小限の訓練時間	40	

* 「放射線安全管理」については、JIS Z 2305:2013 の最小限の訓練時間に含まれていないが、放射線を取り扱う技術者として必須項目であるため、訓練時間は定めずに項目を追加した。

＜例：RT1 訓練時間の満足のさせ方＞

- ・ RT1 訓練用シラバスの「①訓練内容」ごとに規定された「③講義」と「④実習」の訓練時間を満足するよう訓練を受けます（規定された「①訓練内容」の訓練を一つでも満足できなかった場合、受験資格はありません）。
- ・ 「③講義」と「④実習」の訓練時間を満足すると RT1 の「必要な講義時間」と「必要な実習時間」を満足することになります。
- ・ 「必要な講義時間」と「必要な実習時間」を合計します。
- ・ 合計した訓練時間が RT1 の「⑦最小限の訓練時間」を満足していない場合は、「①訓練内容」に規定された訓練を追加で受けて満足させます。RT1 訓練用シラバスに規定された「①訓練内容」の訓練であれば、既に受けている訓練でも構いません。
- ・ 訓練を受けた記録（訓練実施記録）は、訓練を行った訓練機関等から発行してもらいます。

＜例：RT1 訓練時間の組合せと受験資格の例＞

	必要な訓練時間	例 1	例 2	例 3	例 4	例 5	例 6
講義時間の合計	12～28	10 ×	10 ×	28 ○	14 ○	12 ○	32 ○
実習時間の合計	12～28	11 ×	28 ○	11 ×	20 ○	28 ○	32 ○
講義・実習の合計時間	40	21 ×	38 ×	39 ×	34 ×	40 ○	64 ○
	受験資格	なし	なし	なし	なし	あり	あり

* 「訓練内容」ごとの訓練時間を満足していない場合、受験資格はありません。

* 「必要な訓練時間」を超える訓練を行っても構いません。

例 1～3 講義時間の合計及び実習時間の合計以前に「訓練内容」ごとの訓練時間を満足していませんので受験資格はありません。

例 4 「訓練内容」ごとの訓練時間は満足していますが、講義・実習の合計時間が 40 時間に達していないため受験資格はありません。

例 5～6 「訓練内容」ごとの訓練時間と講義・実習の合計時間の両方を満足していますので受験資格があります。

4. 訓練方法

主な訓練方法には次のものがあります。

訓練方法	訓練内容	種類	説明
講習会	訓練機関等が、JIS「訓練用シラバス」に基づき訓練コースを設定し、受講者を募って行う講習会等の訓練	フル訓練コース	JIS「訓練用シラバス」の訓練内容を全て行う訓練 (例：JSNDI 本部講習会等)
		ポイント訓練コース	JIS「訓練用シラバス」の訓練内容の一部を行う訓練 (例：JSNDI 支部・研究会や企業等が行う講習会等)
個別訓練	勤務先等から委託された訓練する資格を持った者（訓練者）が個別に行う訓練	——	JIS「訓練用シラバス」の訓練内容を全て又は一部を行う訓練 (例：訓練者に委託して個別に行う訓練（社内訓練等）)

* JIS「訓練用シラバス」の訓練内容ごとの必要な訓練時間をすべて満足し、かつ、合計した訓練時間が「最小限の訓練時間（「1. 受験申請資格と最小限の訓練時間」参照）」を満足しなければ受験資格は得られません。

* フル訓練コースを受講して必要最低限の知識と技能を修得した後、OJT 等により訓練を重ねて NDT 技術の修得を確実にしたうえで受験されることをお勧めします。

<その他の訓練方法>

・ OJT (On the Job Training)

訓練者のもと、業務中に指導を受けて必要な NDT 技術を修得する訓練です。

JIS「訓練用シラバス」に基づく訓練内容の訓練でなくてはなりません。

OJT による訓練実施記録は、勤務先が発行します。

訓練実施記録は、訓練証明者（「5. 訓練者、訓練責任者、訓練証明者」参照）による証明が必要です。

・ 通信教育、e ラーニング

訓練機関等が、郵便や情報通信等を利用して行う訓練です。

JIS「訓練用シラバス」の講義部分の訓練に限定されますので、通信教育、e ラーニングだけで JIS「訓練用シラバス」を全て満足することはできません。

訓練の課程ごと、又は/及び、訓練の最後に訓練機関等は修了確認を行い、訓練機関等が JIS「訓練用シラバス」に基づき設定した訓練コースを修了したことを記載した訓練実施記録を発行します。

訓練実施記録は、訓練証明者（「5. 訓練者、訓練責任者、訓練証明者」参照）による証明が必要です。

5. 訓練者、訓練責任者、訓練証明者

《訓練者（訓練する資格を持った者）》

その訓練内容の専門家。

必ずしもその NDT 方法の資格保持者である必要はありませんが、訓練証明者が「その訓練内容の訓練を行う者として適格と認めた者」でなければなりません。

「訓練実施記録」（見本 3 参照）には、「氏名」と「勤務先・所属」を記入します。

《訓練責任者》

訓練責任者は、講習会等の主催者、又は、その訓練を企画した責任者であり、その訓練全般に対し責任を持たなければなりません。

訓練責任者は、その NDT 方法の資格保持者でなくとも構いません。

「訓練実施記録」（見本 3 参照）には、「訓練機関名称」、「所在地」、「所属部課名・役職」、「連絡先（電話番号）」及び「訓練責任者名」を記入します。

「訓練責任者」を置かない個別訓練等では記入の必要はありません。

《訓練証明者》

訓練実施記録に記載された訓練が、全ての訓練終了後に適切な訓練であることを証明する者で、**JSNDI 発行の資格保持者**。

レベル 1 及びレベル 2 の訓練実施記録であれば、その NDT 方法のレベル 2、又は、レベル 3 の資格保持者。ただし、限定 NDT 方法の場合、次となります。

- ・ UM1⇒UT2、UT3 ・ MY1、MY2⇒MY2、MT2、MT3
- ・ ME1⇒MT2、MT3 ・ PD1、PD2⇒PD2、PT2、PT3

レベル 3 の訓練実施記録であれば、その NDT 方法のレベル 3 の資格保持者。ただし、「レベル 3 基礎（NDT 共通）訓練」に限っては、NDT 方法共通であるため、レベル 3 の資格保持者であれば NDT 方法は問いません。

<LT レベル 3 の訓練証明者移行措置（2019 年春期～当面継続）>

LT レベル 3 は 2019 年春期より新設された資格のため、移行措置として次の①又は②の資格保持者を LT3 の訓練証明者として認めます。

- ①LT レベル 2 資格保持者で、かつ LT 以外のレベル 3 資格保持者 1 名
- ②LT レベル 2 資格保持者と LT 以外のレベル 3 資格保持者の 2 名

<TT レベル 3 の訓練証明者移行措置（2025 年秋期～当面継続）>

TT レベル 3 は 2025 年秋期より新設された資格のため、移行措置として次の①又は②の資格保持者を TT3 の訓練証明者として認めます。

- ①TT レベル 2 資格保持者で、かつ TT 以外のレベル 3 資格保持者 1 名
- ②TT レベル 2 資格保持者と TT 以外のレベル 3 資格保持者の 2 名

訓練証明者は、訓練実施記録の内容が適切な訓練内容であることを、資格保持者として責任を持って証明しなければなりません。

「訓練実施記録」（見本 3 参照）には、「訓練証明者名・押印」、「証明日」、「保持資格」及び「認証番号」を記入し、押印します。

※訓練証明者の証明のない訓練実施記録は、訓練実施記録として認められません。

※社内訓練・研修において社内に資格保持者がいない場合、社外の資格保持者が訓練証明者になっても構いません。ただし、訓練証明者は資格保持者としての責任を持って証明しなければなりません。

6. 1 日の最大訓練時間

1 日における最大訓練時間は、8 時間までとします。

1 日 8 時間を超える訓練は、技術修得の効率さが下がるため適当ではありません。

OJT、通信教育・e ラーニングについても同じです。

7. 訓練の有効期間

訓練は、訓練を受けた日から 5 年間有効とします。

8. 訓練の証明書

新規試験の受験申請の際に提出する訓練の証明書には、次の二つがあります。

受験申請時に①と②の両方の証明書を提出します。

* レベル 1 資格非保持者で直接レベル 2 の受験申請をする場合、レベル 1 用の①と②、レベル 2 用の①と②の両方が必要となります。

①訓練実施記録集計表 (見本 1、見本 2 参照)	・ 訓練実施記録の内容を取りまとめて集計し、雇用主の証明を受けてください。 ・ 原本は保管し、コピーを提出してください。 ・ <u>訓練実施記録が 1 枚であっても、訓練実施記録集計表の提出は必要です。</u>
②訓練実施記録 (見本 3 参照)	・ 訓練を受けた記録(証明書)を、訓練を行った訓練機関(又は、個人)から発行してもらってください。 ・ 原本は保管し、コピーを提出してください。

◆訓練実施記録と訓練実施記録集計表はホームページよりダウンロードください◆

9. 訓練の証明書を提出する受験申請

「8. 訓練の証明書」を提出する必要のある受験申請は、次のとおりです。

＜再試験及び再認証試験の受験申請では訓練の証明書を提出する必要はありません＞

	受験申請の種類
レベル 1 レベル 2	・ 一次新規試験の受験申請の際に提出が必要です。
レベル 3	・ 一次新規試験(基礎試験)及び*二次新規試験(主要方法試験)の受験申請の際に提出が必要です。

* 二次新規試験(主要方法試験): 申請する NDT 方法以外のレベル 3 資格保持者、又は、一次試験(基礎試験)合格から 5 年以内の方は、一次試験(基礎試験)を受験せずに二次試験から新規に受験申請をすることが出来ます。

10. 訓練の証明書のまとめ方（概要）

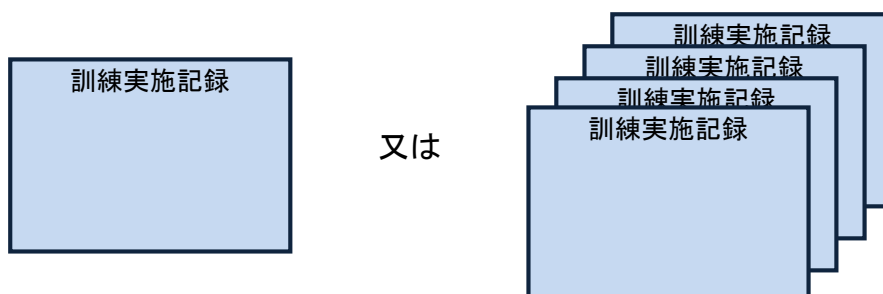
訓練の証明書は2種類あります。「8. 訓練の証明書」をご覧ください。

訓練の証明書のまとめ方は次になります。

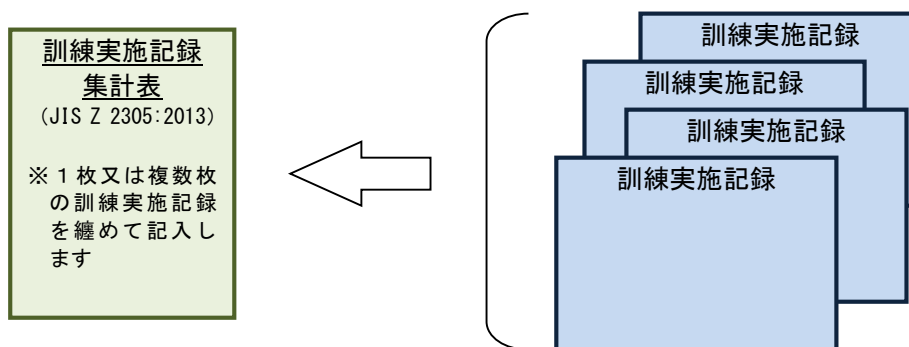
なお、レベル3訓練の証明書は、NDT 共通の「レベル3 基礎（NDT 共通）訓練」と「NDT 別訓練」に分かれますので、まとめ方がレベル1及びレベル2とは異なりますのでご注意ください。

＜レベル1及びレベル2のまとめ方＞

- ①申請する NDT 方法・レベルの JIS「訓練用シラバス」及び「1. 受験申請資格と最小限の訓練時間」を満足する「訓練実施記録」を揃えます。「訓練実施記録」は1枚で済む場合もあれば、複数枚必要な場合もあります。



- ②「訓練実施記録」に記載された訓練内容ごとの訓練時間を「訓練実施記録集計表」に記入します。「訓練実施記録」が複数枚ある場合は、訓練内容ごとの訓練時間を合計して記入します。「訓練実施記録」が1枚で済む場合であっても「訓練実施記録集計表」の提出は必要です。



* レベル1 資格非保持者で直接レベル2の受験申請をする場合、レベル1用の「訓練実施記録集計表」と「訓練実施記録」、レベル2用の「訓練実施記録集計表」と「訓練実施記録」の両方が必要となります。

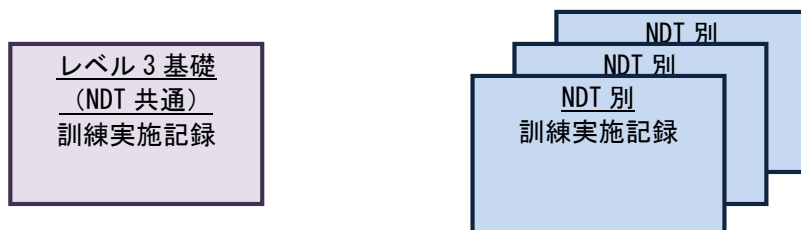
* LT の訓練実施記録は、(B) 圧力法と (C) トレーサガス法の 2 種類に分かれています。提出の際は (B) (C) 両方とも提出してください。

* 受験申請時の提出書類のまとめ方等については、ホームページの「(EA2) 新規試験実施案内（新たに試験を受ける方）」及び「(EA4-3) 新規受験申請書レベル1&2 専用 記入要領」をご覧ください。

＜レベル3のまとめ方＞

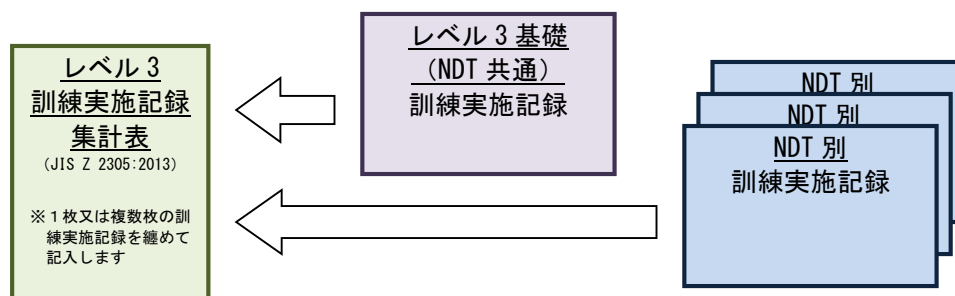
- ①申請する NDT 方法・レベルの JIS「訓練用シラバス」及び「1. 受験申請資格と最小限の訓練時間」を満足する「訓練実施記録」を揃えます。(LT は(B)圧力法と(C)トレーサガス法の2種類)

* レベル3の場合、「訓練実施記録」が「レベル3基礎（NDT 共通）訓練」と「NDT 別訓練」に分かれていますので、専用の「訓練実施記録」が複数枚必要となります。



- ②「訓練実施記録」に記載された訓練内容ごとの訓練時間を「訓練実施記録集計表」に記入します。「訓練実施記録」が複数枚ある場合は、訓練内容ごとの訓練時間を合計して記入します。「訓練実施記録」が1枚で済む場合であっても「訓練実施記録集計表」の提出は必要です。

LT を受験する方は、「レベル3基礎（NDT 共通）訓練実施記録」に記載されている「訓練実施時間」を「訓練時間集計表」の（B）圧力法と（C）トレーサガス法に半分ずつ配分して記入してください。



* 受験申請時の提出書類のまとめ方等については、ホームページの「(EA2) 新規試験実施案内（新たに試験を受ける方）」及び「(EA4-4) 新規受験申請書レベル3専用 記入要領」をご覧ください。

1 1. 訓練の証明書の経過措置**◆訓練実施記録集計表**

2019 年春期から JIS Z 2305:2013 に規定された最小限の訓練時間が適用されます。

訓練実施記録集計表は、訓練実施記録の枚数に関わらず、2019 年春期の受験申請から必要となります。

◆NDIS 制度の訓練実施記録

NDIS 制度の訓練実施記録は 5 年の有効期間中は使用できますが、次に示す受験申請ごとに対応が異なりますのでご注意ください。

<2019 年春期～2020 年春期試験の受験申請>

- ・NDIS の様式で作成されたレベル 1、2 の訓練実施記録はそのまま使用出来ます。ただし、LT1 は追加訓練が必要です。
- ・訓練実施記録集計表への記入場所は、「NDIS 制度の訓練」の欄（S 欄）です。

<2020 年秋期試験以降の受験申請>

- ・2020 年秋期試験受付から JIS Z 2305:2013 の訓練用シラバスが適用されます。
- ・2020 年秋期試験受付から、訓練実施記録集計表の「NDIS 制度の訓練」の欄（S 欄）は使用出来ません。
- ・NDIS の訓練実施記録を使用することはできますが、JIS「訓練用シラバス」に該当しない訓練内容の訓練時間は使用出来ません。また、NDIS の訓練実施記録の訓練内容が、JIS Z 2305:2013 訓練用シラバスのどの訓練内容に該当するか仕分ける必要があります。
- ・仕分けについては、訓練を行った訓練機関か、訓練者にお問合せください。JSNDI 認証事業部にお問合せいただいても、訓練を行った団体ではないため、NDIS 制度の時に実施された訓練（の内容）が、JIS「訓練用シラバス」のどの訓練内容になるかはお答えすることはできません。

<JSNDI 発行の NDIS 訓練実施記録で JIS の受験申請をする場合>

JSNDI で実施した NDIS の訓練と JIS Z 2305 : 2013 の訓練シラバスとの差異はありません。（LT1 除く） LT1 の差異に関する詳細は「(EA3-1) 訓練実施記録及び集計表（LT1）」を参照してください。

* NDIS 制度の訓練実施記録の訓練内容を JIS「訓練用シラバス」の訓練内容に仕分けた結果、JIS「訓練用シラバス」で要求される訓練内容をすべて満足できない可能性があります。そのため、JIS「訓練用シラバス」が適用される 2020 年秋期試験受付までに JIS「訓練用シラバス」に基づいた訓練を受けることをお勧めします。

12. よく寄せられる質問

Q : LT1 で最小限の訓練時間が変更されていますが、NDIS 制度による訓練時間で受験申請できますか。

A : 2019 年春期試験受付からは JIS 制度による最小限の訓練時間が適用されますので、訓練時間が不足することになります。不足している時間の追加訓練が必要となります。

Q : LT では技法ごとに最小限の訓練時間が設定されています。これを満足していないと受験できませんか。

A : 受験できません。例えば LT1 は 48 時間の訓練時間が必要ですが、圧力法で 24 時間、トレーサガス法で 24 時間の最小限の訓練時間が必要となります。

Q : 訓練の有効期間が 5 年間ありますが、NDIS 制度による推奨カリキュラムの訓練は使用できますか。

A : 訓練は 5 年間有効ですが、経過措置期間によって対応が異なります。詳細については、「11. 訓練の証明書の経過措置」をご覧ください。

Q : NDIS 制度による訓練実施記録の訓練内容を JIS 制度の訓練用シラバスの訓練内容に仕分けるにはどうすればよいですか。

A : 訓練を行った訓練機関か、訓練者にお問合せください。JSNDI 認証事業部にお問合せいただいても、訓練を行った団体ではないため、NDIS 制度の時に実施された訓練（の内容）が、訓練用シラバスのどの訓練内容になるかはお答えすることはできません。

Q : PT3 の資格を保持しています。LT3 を受験申請する場合、レベル 3 に共通なレベル 3 基礎の訓練時間（8 時間）を除いた 64 時間（72 時間－8 時間）でよいですか。

A : レベル 3 資格を保持していても、新たに別のレベル 3 を申請する場合はレベル 3 基礎の訓練時間（8 時間）が必要となります。従って、LT3 を新規受験申請する場合は 72 時間の訓練時間が必要です。訓練実施記録は 5 年間有効ですので、有効期間内であれば他のレベル 3 基礎の訓練時間（8 時間）として訓練実施記録のコピーを使用することは可能です。

*** JIS 制度 : JIS Z 2305:2013 に基づく制度**

*** NDIS 制度 : NDIS 0604、0605 に基づく制度**

見本1：レベル1及びレベル2用訓練実施記録集計表（TT2）

訓練実施記録集計表（Excel 2010 ファイル）は、網掛け部分のみ入力できます。
網掛け部分以外は入力できません。

訓練を受けた方が、自分で署名をし、
印鑑を押してください。

赤外線サーモグラフィ試験 レベル2 訓練実施記録集計表

◆レベル1の資格を所持していない方は、レベル1の訓練実施記録集計表と訓練実施記録も必要◆

NDT方法・レベル	TTレベル2	訓練実施記録を本書に纏めてください。			
訓練を受けた者の氏名	非破壊 太郎	訓練を受けた者の署名・押印欄、及び、雇用責任者証明欄への記名・押印が必要です。			
訓練を受けた者の署名・押印	非破壊 太郎 (印)	提出は、本書のコピーを提出してください。			
訓練内容	訓練内容項目	訓練内容別 必要訓練時間		訓練実施時間	
		講義	実習	講義	実習
はじめに	歴史 NDTの目的 TTの目的 用語	1.00		1.00	
赤外線工学の基礎	伝熱工学 赤外線工学	4.00	4.00	4.00	5.00
製品の知識及び 試験方法の特性	TTの原理 熱弾性応力測定法 様々なきずとその原因	7.00	8.00	7.00	9.00
装置及び器材	赤外線サーモグラフィ装置 周辺機器 熱負荷装置	3.00	3.00	3.00	4.00
試験前情報	試験対象物の情報 試験条件と規格適用 試験を実施する際の方法と手順 指示文書	4.00	4.00	4.00	5.00
試験	試験条件 赤外線サーモグラフィ装置の操作 様々なきずとその原因	8.00	9.00	8.00	15.00
評価及び報告	データ処理 記録 報告	2.00	2.00	2.00	5.00
査定	試験報告の評価と承認	1.00	1.00	1.00	3.00
品質アスペクト	技術者の資格 文書 適用可能なNDT方法と製品規格の知識	1.00	1.00	1.00	2.00
開発	一般情報	1.00		1.00	
		合計		A 32.00	B 48.00

NDT 方法別の訓練実施記録を集計する欄。
訓練内容ごとに訓練時間を集計して入力してください。

2019 年春期～2020 年春期試験は、
NDIS 制度の訓練実施記録を訓練内容ごとに仕分けせずにそのまま使用することができます。
ここに入力してください。

*この欄は
2020 年秋期試験からは使用できません。旧制度の訓練実施記録は、訓練内容ごとにシラバスの該当する訓練内容に仕分けて使用することができます。

◆2019年春期試験から2020年春期試験までは、旧制度の訓練実施記録をそのまま使用することができます。旧制度の訓練実施記録を用いる場合は、次の欄をご使用ください。

訓練内容	訓練実施時間
旧制度の訓練（訓練の有効は5年間です）*この記入欄は2020年春期試験までしか使用できません*	S

《訓練時間集計欄》	
訓練実施記録 添付枚数	訓練期間（訓練の有効は5年間）西暦年月日 開始 2018/年/月 終了 2018/年/月
3 枚	訓練の種類
	必要な訓練時間
	訓練実施時間
	講義
	実習
	旧制度の訓練
	最小限の訓練時間
	合計

《雇用責任者証明欄》

添付した訓練実施記録及び本集計表に間違いがないことを遵守事項に同意のうえ証明いたします。

雇用責任者名・押印	日本 一郎 (印)	証明日	20** 年 ** 月 ** 日
勤務先・所属・役職	日本●●●検査工業株式会社 品質管理部 部長		
所在地	〒 136-0071 東京都江東区***3-2-1		
電話番号/FAX番号	TEL 03-****-**** FAX 03-****-****		

添付する訓練実施記録等の
枚数を入力してください。

雇用責任者の押印は、個人印でも
会社印でも構いません。

見本2：レベル3用訓練実施記録集計表 (LT3)

訓練実施記録集計表 (Excel 2010 ファイル) は、網掛け部分のみ入力できます。
網掛け部分以外は入力できません。

訓練を受けた方が、自分で署名をし、印鑑を押してください。

レベル3基礎
(NDT共通)の訓練実施記録を集計する欄
訓練内容ごとに訓練時間を集計して入力してください。

NDT方法別の訓練実施記録を集計する欄
訓練内容ごとに訓練時間を集計して入力してください。

レベル3基礎試験 (NDT共通) 及び漏れ試験 レベル3 訓練実施記録集計表

NDT方法・レベル	LTレベル3 非破壊 太郎	訓練実施記録を本書に載めてください。 訓練を受けた者の署名・押印欄、及び、雇用責任者証明欄への 記名・押印が必要です。提出は、本書のコピーを提出してください。							
訓練を受けた者の署名・押印	非破壊 太郎								
		(B)圧力法 / (C)トレーサガス法							
レベル3基礎 (NDT共通) 訓練内容	レベル3基礎 (共通) 訓練内容項目	訓練内容別 必要訓練時間		訓練実施時間 (B)		訓練実施時間 (C)			
		講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習
非破壊試験技術者の 認証システム	非破壊試験の認証システム JIS Z 2305による認証システム	1.00		0.50		0.50			
材料科学及び製品の製造技術	炭素鋼の平衡状態図 金属の塑性変形 熱処理 鉄鋼製品の製造技術、製造工程中及び使用中に発生する欠陥 非鉄金属材料 溶接と溶接欠陥 強度と破壊	3.00		1.50		1.50			
各種の非破壊試験方法	各種非破壊試験方法概論(レベル2の知識)	4.00		2.00		2.00			
				B1 4.00	B2 0.00	C1 4.00	C2 0.00		
訓練内容	訓練内容項目	訓練内容別 必要訓練時間 (B)		訓練内容別 必要訓練時間 (C)		訓練実施時間 (B)		訓練実施時間 (C)	
		講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習
漏れ試験の用語と歴史の紹介	歴史 非破壊試験、漏れ試験 用語	1.00		1.00		1.00		1.00	
物理的原理と関連知識	物質の物理的挙動 圧力 理想気体の法則 真空中における圧力レンジ 真空中の流れ 真空中におけるコンダクタンス 脱ガス 排気速度 放熱(冷却)率	2.00	4.00			2.00		4.00	
製品知識と試験方法 及び適用記述	圧力変化による方法 試験方法	0.00	4.00			0.00		4.00	
装置器材	機械式ゲージ ピストンゲージと熱電対温度計 コールドカラム及びバイパス温度計 真空ポンプ ロータリーポンプ及びピストンポンプ ルーツポンプ 複数ポンプ フラッシング	4.00	4.00			4.00		4.00	
試験の事前情報	試験対象物の情報 試験条件及び適用 作業の指示文書	3.00	4.00			3.00		4.00	
試験	発泡試験の実施と技法 圧力変化技法 圧力減衰技法 圧力上昇技法 チャンバ圧力変化技法 流量測定技法 トレーサガス法の実施と技法 質量分析計 熱伝導ゲージ ガス分析装置	10.00	10.00			10.00		10.00	
結果の評価と報告	受入基準と適用手順に基づく結果分析と評価 漏れ試験手順の編集	3.00	3.00			3.00		3.00	
評価	プロジェクトの専門技術者と製造管理者で行う受入基準の評価 代替手法の妥当性検証	1.50	2.50			1.50		2.50	
NDTに関わる品質側面	技術者の資格 文書 適用可能なNDTと製品規格	2.50	2.50			2.50		2.50	
開発	工業と研究開発のための新規開発	1.00	1.00			1.00		1.00	
				合計	B3 28.00	B4 0.00	C3 36.00	C4 0.00	

自動計算

《訓練時間集計表》		訓練期間 (訓練の有効は5年間) 西暦年月日				開始	20**年**月**日				終了	20**年**月**日			
訓練の種類	必要訓練時間	訓練実施時間				レベル3基礎 (B)	訓練実施時間				レベル3基礎 (C)	訓練実施時間			
		レベル3基礎 (B)	レベル3基礎 (C)	圧力法 (B)	トレーサガス法 (C)		レベル3基礎 (B)	レベル3基礎 (C)	圧力法 (B)	トレーサガス法 (C)					
講義	4.00	4.00		28.00	36.00	B1 4.00	C1 4.00	B3 28.00	C3 36.00						
実習	0.00	0.00		0.00	0.00	B2 0.00	C2 0.00	B4 0.00	C4 0.00						
最小限の訓練時間	計			72.00		計			72.00						

《雇用責任者証明欄》
添付した訓練実施記録及び本集計表に間違いがないことを遵守事項に同意のうえ添付いたします。

雇用責任者名・押印	日本 一郎	印	証明日	20**年**月**日
勤務先・所属・役職	日本●●●検査工業株式会社 品質管理部 部長			
所在地	〒 136-0071 東京都江東区****3-2-1			
電話番号/FAX番号	TEL 03-****-****	FAX 03-****-****		

添付する訓練実施記録等の
枚数を入力してください。

雇用責任者の押印は、個人印で
も会社印でも構いません。

見本 3：訓練実施記録 (LT3)

- * 訓練実施記録（Excel 2010 ファイル）は5年間有効です。
- * 訓練実施記録集計表に添付する際は、コピーで構いません。

日を空けて訓練をした場合、訓練の開始日と終了日のみ記入してください。
例：4/25、5/2、5/9の訓練⇒4/25～5/9

訓練者の氏名と勤務先・所属を記入してください。訓練者については「5. 訓練者、訓練責任者、訓練証明者」参照。

訓練機関、又は、個別訓練を行った方が、印字してください。

訓練を受けた方が、自分で署名をし、印鑑を押してください。

NDT方法・レベル

訓練を受けた者の氏名

訓練を受けた者の署名・押印

LTレベルⅢ(B-圧力法)

非破壊 太郎

※訓練内容別必要訓練時間を満足するとともにNDT方法・レベルごとの最小限の訓練時間(訓練実施記録集計表参照)を満足する必要があります。

※訓練機関、又は、個別訓練者により訓練実施記録を発行していただく。

※最終的に訓練実施記録を訓練実施記録集計表にまとめて提出します。

漏れ試験 レベル3 (B-圧力法) 訓練実施記録

訓練内容	訓練内容項目	訓練内容別必要訓練時間		訓練実施時間		訓練実施日 (西暦年月日)		訓練実施場所	訓練者	
		講義	実習	講義	実習	開始日	終了日		氏名	勤務先・所属
漏れ試験の用語と歴史の紹介	歴史 非破壊試験、漏れ試験 用語	1.00	-	1.00		2018/12/1	2018/12/1	●●非破壊試験訓練センター	検査一男	■検査工業製品質管理部
物理的原理と関連知識	物質の物理的挙動 圧力 理想気体の法則 真空における圧力レンジ 真空室の流体 真空に対するメンブレン 密封 排気速度 仮想シールと実シール 圧力変化による方法 検査方法	2.00	-	2.00		2018/12/1	2018/12/1	●●非破壊試験訓練センター	検査一男	■検査工業製品質管理部
製品知識と試験方法及び適用技術	機械式ボンプ エアー・ターボ・電気駆動装置 ユーティリティ及びパイプ、高圧計 真空ポンプ ロータリーポンプ及びピストンポンプ ルーンポンプ 真空ポンプ 真空ポンプ	0.00	-	0.00						
装置機材	試験対象物の情報 試験条件及び適用 作業の指示文書	4.00	-	4.00		2018/12/1	2018/12/1	●●非破壊試験訓練センター	検査一男	■検査工業製品質管理部
試験の事前情報	製品試験の準備と方法 圧力変化法 圧力漏れ法 圧力上昇法 スキャン圧力変化法 流量測定法 トランスミッターの準備と方法 質量分析計 検出線グラフ グラフ分析結果	3.00	-	3.00		2018/12/2	2018/12/2	●●非破壊試験訓練センター	検査一男	■検査工業製品質管理部
試験	製品試験の準備と方法 圧力変化法 圧力漏れ法 圧力上昇法 スキャン圧力変化法 流量測定法 トランスミッターの準備と方法 質量分析計 検出線グラフ グラフ分析結果	10.00	-	10.00		2018/12/3	2018/12/4	●●非破壊試験訓練センター	検査一男 漏れ次郎	■検査工業製品質管理部 〇〇工業検査機製造部
結果の評価と報告	受入基準と適用手順に基づく結果分析評価 漏れ試験装置の調整	3.00	-	3.00		2018/12/3	2018/12/3	●●非破壊試験訓練センター	検査一男	■検査工業製品質管理部
評価	プロセスの専門技術者と製造管理責任者で行う受入基準の評価 検査方法の妥当性検証 技術者の資格 文書	1.50	-	1.50		2018/12/4	2018/12/4	●●非破壊試験訓練センター	検査一男	■検査工業製品質管理部
NDTに関わる品質側面	適用可能なNDT製品規格 工業上での開裂のための新規開発	2.50	-	2.50		2018/12/4	2018/12/4	●●非破壊試験訓練センター	検査一男	■検査工業製品質管理部
開裂	工業上での開裂のための新規開発	1.00	-	1.00		2018/12/4	2018/12/4	●●非破壊試験訓練センター	検査一男	■検査工業製品質管理部
		28.00	0.00	28.00	0.00	時間(講義+実習)		網掛けの入力枠以外は変更しないでください		
		最小限の訓練時間(講義+実習)		28.00						

<訓練機関> 個別訓練の場合、記入不要

訓練機関名称

所在地

所属部門・役職

連絡先TEL

訓練責任者名

<訓練証明者> 資格証明書保持者の責任において、本書の訓練が適切な訓練であることを証明します。

訓練証明者名・押印

保持資格(LT2認証番号)

ABC検査工業部

〒999-9999 東京都中央区●●●2-1-1

品質保証部

0123-45-6789

検査 太郎

検査 一男

証明日
(西暦年月日)

有効期限

教育 健太郎

保持資格(レベル3認証番号)

証明日
(西暦年月日)

有効期限

訓練機関、又は、訓練の責任者を置いている場合、記入してください。訓練責任者については「5. 訓練者、訓練責任者、訓練証明者」参照。

訓練実施時間の単位は時間です。
60 分 : 1.00 時間、30 分 : 0.50 時間、15 分 :
0.25 時間、10 分 : 0.16 時間、5 分 : 0.08 時間

訓練証明者の押印
は、個人印です。

訓練証明者の証明（証明日）は、全ての訓練が終了してから（最終訓練日以降）証明を行ってください。
また、証明日は保持資格の有効期間中でなければなりません。